

令和3年度第1回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 令和4年2月21日 午後1時30分
2. 開 会 令和4年2月21日 午後1時30分
3. 閉 会 令和4年2月21日 午後3時10分
4. 会議の場所 高梁市役所3階会議室2・3
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
藤 井 祥 生	出 席
吉 川 昭	出 席
川 上 は る 江	出 席
渡 邊 あ り さ	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	前 野 洋 行	
健 康 福 祉 部 長	蛭 田 俊 幸	
教 育 次 長	上 森 智 子	
参 与	田 村 啓 介	
参 与	横 山 英 樹	
参 与	柴 田 英 樹	
こ ど も 未 来 課 長	藤 井 聡 美	
学 校 教 育 課 長	片 岡 一 公	
社 会 教 育 課 長	伊 丹 誠	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	藤 井 正 宣	
教 育 総 務 課 総 務 係 長	福 本 真 紀 子	

## 7. 協議題

- (1) コロナ禍における学びの継続
- (2) これからの人づくり～
- (3) 自転車推進計画に寄与するスポーツ振興施策

## 8. 議事の概要

### 1 開会

### 2 あいさつ（市長）

2月18日に新年度の予算発表をした。一般会計予算253億2千万円で、いろいろなことを始め、また必要なものは継続するという予算である。教育委員会関係ではまず中学校を1クラス35人以下にする学級編制の弾力化を行う。そして機構を改編し保育園、幼稚園、こども園の管理運営を教育委員会部局で行い、「学校教育課」を「こども教育課」に改める。「こども未来課」については子どもの相談窓口として相談連携機能を強化する。そして、学校給食公会計化の予算を計上している。ICT教育には引き続き取り組んでいく。高梁市の人口規模であるがゆえにできる施策に取り組み、教育面でも高梁市の特色を全国に発信していきたい。高梁市で教育を受けさせたいと思っただけのように、教育環境だけでなく住環境施策にも取り組んでいこうと考えている。

コロナ禍で家にいる時間が長くなっているが、やはり大切なのは絆、繋がり、コミュニケーションであると気づかされた。学校における教育だけでなく、地域の方たちも一体となって子どもたちのコミュニケーション能力を育てていけたらと考えている。この高梁市に住んでよかったと言っただけのような様々な環境づくりのために、皆様のお力をお借りしたいと思っている。本日はよろしくお願ひします。

### 3 協議題

学校教育課長	別紙資料により「(1) コロナ禍における学びの継続について」を説明。
藤井教育委員	タブレットの全員持ち帰りまで進んでいるがオンライン授業の実施状況はどうか。一部の学校、学級だけでなく全体での実施についてはどうか。
教育長	基本的な考えとしては、登校できる状況であれば対面授業を行う。休まざるを得ない子どもに対しての保障としてオンライン授業を行う。学級閉鎖を行った学級ではどの学級にもオンライン授業を行った。朝の会だけということもあったが、どの学校でどの学年であってもできるということは分かった。
川上教育委員	対面授業も選択できる、オンライン授業も選択できる、両方を効果的に噛み合わせてできるという体制を整えていることが素晴らしいと感じた。9月の時点で持ち帰りを全員試行したところは岡山県下でもなかなかないのではないかと。 今後に向けて2点思っている。1点目は広報紙などでこの状況を伝えてはどうか。この取り組みを市民の皆さんにも広報することで地域の教育力を引き出すことが可能になるのではないかと思う。 2点目は、ハイブリッド形式授業の質の向上について。一斉対面授業や一斉オンライン授業は非常に効果的だが、一部が対面、一部がオンラインというハイブ

学校教育課長	<p>リッド形式授業になると、オンラインで受けている子どもたちにとってただのカメラ機能となっていないか、授業の質の保障が十分なのかということが問題になると思う。そこは教員の教材研究や、機器をどこまで使いこなせるかにかかってくる。教員に対する研修制度を計画的に行い、質の向上に取り組めばオンライン授業がもっと活きると感じている。</p>
吉川教育委員	<p>今回学級閉鎖でオンライン授業を行うにあたって、ICT支援員の力を借りてオンラインを受ける子どもたちに分かりやすいよう、角度を変えるなど環境支援をしていただいた。教員だけではできないところを、支援員とともに少しでも質が向上するように取り組んでいきたい。</p>
教育長	<p>学級編制の弾力化については、説明を聞いて大変成果があったと実感した。令和4年度からは中学校の35人以下学級が始まるということで画期的な取組である。</p> <p>合同オンライン授業が小規模校で実施されているということである。小規模校にとって限られた人数での授業には限界があり、今後も合同オンライン授業をもっと広げて推進していけたらと思う。</p> <p>GIGAスクール構想とコロナ対応というのは一致するところが多々あり、この機に「つべこべ言わずにやってみる」を合言葉に徹底的に取り組みたい。先生も子どもたちも使えるようになった後は、どういう時にどう使えばよいかという質の向上についても模索していかなければと思っている。</p>
学校教育課長	<p>別紙資料により「(2) これからの人づくり～探究的学習の推進～」を説明。</p>
渡邊教育委員	<p>高梁中学校の取組を今年度見学させていただいた。子どもたちの主体的な学びや、地域に関わろうという積極的な意識が確実に育っているのを見て感動した。18歳以上に選挙権が与えられるようになり、中学生にとっては自分を社会の一員と捉える年齢が近くなった。こういった取組は継続して行ってほしい。</p>
川上教育委員	<p>昨年12月に沖縄県名護市の校長先生方が高梁市のコミュニティスクール(CS)の視察に来られた。その中で高梁中学校の取組を紹介していただいて、探究的な学習を基盤にしての総合的な学習の時間が、CSの協力もあって、より探究的な取組になっていることに非常に興味を持たれていた。上から教えられるのではなく、CSという組織をうまく利用しながら、生徒が自ら探究的な学びに取り組んでいくことが素晴らしいというご感想であった。今後令和の時代の教員は主体的な学びができ、自立的な学びができるよう養成しなければならない。子どもたちにも同じように主体的、自立的、そして協働的な学びが必要。そういう時にCSの力や探究的な学びはとても効果的であると考えさせられた。</p>
吉川教育委員	<p>自分たちの学習の中から自分たちの課題を知り、そして解決していこうという中学生が育っていると感じた。高等学校も一生懸命取り組んでいる。今後の課題として高等学校と義務教育学校がどう連携していくか、研究や推進が必要だと思う。</p>
川上教育委員	<p>総合的な学習の時間や探究的な学習にはPDCAサイクルが必要である。活動に対して評価し、問題点はここ、良かった点はここだということを大事にしながららせん状に進んでいけるような課題解決学習でないと思わない。</p>

<p>教育長</p>	<p>高等学校では総合的な学習の時間や探究活動を通じて、地域とともに豊かに生きる、卒業後は地元企業に就職したい、と思えるような学びになっていけたらいいと感じている。</p> <p>高梁市一貫教育全体構想図「たかはしベーシック」の「ふるさと学習」に「探究的学習」を加えた。元々、探究的学習の意味合いも含めた「ふるさと学習」であった。子どもたちが本物に出会う、一生懸命な大人に出会う、それを見て心が動いた時、その子たちの主体的な学習と知識が本物になり、それがふるさとを思う気持ちや、どこへ出ていける力に繋がるという考え方である。「探究的学習」をクローズアップしたのは、ICT利用の推進で危惧される、機械に使われる人間になるのではなく、主体的に目的を持って使う、そういう子どもを育てるために最も有効なのが探究的学習と考えるからである。高梁市の特色として取り組んでいきたいが、先生のレベルが上がらないと子どももできない。先生のレベルを上げるには、管理職の考え方をその方向にする必要がある。管理職の方たちと目的を共有しながら、高梁市の教育を進めていきたい。</p>
<p>スポーツ振興課長</p>	<p>別紙資料により「(3) 自転車推進計画に寄与するスポーツ振興施策」を説明。</p>
<p>吉川教育委員</p>	<p>ヒルクライムチャレンジシリーズがこれまで果たしてきた効果は非常に大きかった。大会の日だけでなく、吹屋へ上がって来られる方が増えている。今、転換期だからこそファンライドやスタンプラリーと言った新しい方向性も見えてきているのはいいことである。自転車を楽しむ方の幅が広がる取組を今後もできればと思う。スタンプラリーでは市内の様々な地域でコースを作り地域が広がった。秋だけでなく、春も含めて年2回開催したらどうか。</p>
<p>スポーツ振興課長</p>	<p>ヒルクライムチャレンジシリーズについては、令和4年度に第10回目の大会として実施したい。スタンプラリーについては、令和3年度秋に実施し、落ち葉や落石のクレームがあったことも事実。令和4年度には岡山県もコース内の県道整備について若干考えていただけるとのご意向を伺っている。安全に走っていただくためには、ルート整備が一番重要である。</p>

#### 4 その他

<p>市長</p>	<p>・子どもたちの実体験について</p> <p>高梁市は岡山大学病院、倉敷中央病院、川崎学園と連携協定を結んでいる。先日川崎医科大学理事長を訪ねた際に、川崎医科大学現代医学教育博物館を見学させていただいた。子どもたちが実体験できる、見学しながら学べるような仕掛けにしてあった。将来の職業を考えるきっかけや参考になるかもしれない。学校で行っている夢先生の授業のように、子どもたちにいろいろな経験や体験をさせるひとつとして活用できないかという思いがしている。</p>
<p>教育長</p>	<p>川崎医科大学は医療面から発達障害について全世界的に引っ張っておられ、特別支援教育のご協力についても再度お願いした。この博物館については、子どもたちに本物を見せたり体験させたりするひとつの選択肢とできれば非常に面白い。学校へは来年度ぜひ吹屋へ遠足に行っていきたいと思っているが、それに加えてここへもというのは難しい面もあるが、選択肢として紹介し、学校がどんどん</p>

<p>市長</p>	<p>いろいろなところへ出て行くきっかけとなり、結果として子どもへよい体験をさせることができたかと考えている。</p> <p>・吹屋地区の観光施策について</p> <p>旧吹屋小学校が3月9日にいよいよ落成式である。来年度は吹屋を含め、高梁市の観光地に何が足りないのかを考えていこうと思っており、その中で吹屋地区の魅力をみなさんに知ってもらうための施策をいろいろ打ち出していく。吉岡銅山の発掘についても引き続き取り組む。高梁市歴史的風致維持向上計画の中では高梁市街地の城下町も入っており、将来的に電柱の地中化などに取り組みたい。城下町としての町並み、吹屋のベンガラ町並み、この2つを大切にし、また活用もしていきたい。来年度は吹屋地区に昨年実証実験をした電気自動車グリーンスローモビリティを導入し、吹屋小学校を軸に広兼邸や吉岡銅山への移動手段として活用していく。</p>
-----------	--

## 5 閉会

### あいさつ（市長）

本日はありがとうございました。時代の流れに子どもたちがしっかりついて行けるよう、我々も時には主となり時には従となりサポートしていかないといけないと考えている。いずれにしても冒頭申し上げたように、ここ高梁で子どもたちを育てよう、教育しようという環境になることが、この町に住み続けようということになると思うので、そのための取組はこれからも歩みを止めることなく進めていこうと考えている。引き続きのご支援、ご協力をお願いします。